

残さ(有機物)を活かした土づくり

リサール酵産

リサール酵産株式会社は微生物を活用する土壤改良資材「カルスNC・R」を製造・販売しています。

カルスNC・Rは、生の有機物と一緒に直接は場に施し、土中で堆肥化しながら微生物相を豊かにして、作物の生育に適した土壤環境をつくります。



（愛用者）
声

今回は、埼玉県でイチゴを栽培する沢村武士さんにお話を伺いました。カルスNC・Rの使用は9年目になり、600坪のハウスで主に『どちらおどめ』を栽培していま

す。

収穫が終わる6月頃にイチゴの残さと一緒にモ

ミガラ、稻わら、米ヌカ、硫安、カルスNC・Rをすき込む土づくりをして

います。

今まで畠の外に持ち出していた残さもそのまますき込んで作業が

ます。それでも樂になります。

「今まで畠の外に持ち出していた残さもそのまますき込んで作業がとても樂になります。」と喜んでいます。

薬剤による土壤消毒はやらずに太陽熱処理をして、その後定植を行っています。

カルスNC・Rを使い始めてから「土が柔らかくなりモミガラなどもよく分解しています。」また、「イチゴの味が良くなり毎年安定して収穫できるようになります」と語ってくれています。

イチゴはすべて直売で売れてしまうほどの大人気で、毎年美味しいイチゴを栽培しています。

詳しい資料をご希望の方は、資料請求券をハガキに貼り「住所・氏名・年齢・電話番号・農業形態・規模」を明記のうえ左記までお送りください。

▼リサール酵産株式会

社
埼玉県さいたま市北区
富原町2の110の12
リラ第3ビル。

電話048

(668) 3

301. FA

X 048 (6

68) 331

5.



2017年(平成29年)1月31日

微生物活用の土壤改良資材「カルスNC-R」

残さやモミガラも土中で堆肥化



(ご愛用者の声)
今日は、福島県郡山市で大葉を栽培している「有限会社郡山アグリサービス」の遠藤喜一社長にお話を伺いました。

現在60戸全てのハウスにカルスNC-Rを使用しています。収穫終了後の大葉の残さと生モミガラをそのままハウス内で米ヌカ・硫安・カルスNC-Rと一緒にすき込み、土中で堆肥化しながら運

肥料の材料となる生の有機物と一緒に直接ほ場に施し、土中で堆肥化しながら微生物相を豊かにして、作物の生育に適した土壤環境をつくります。

カルスNC-Rは、堆肥の材料となる生の有機物と一緒に直接ほ場に施し、土中で堆肥化しながら微生物相を豊かにして、作物の生育に適した土壤環境をつくります。

リサール酵産

リサール酵産株式会社

は微生物を活用する土壤改良資材「カルスNC-R」を製造し全国に販売しています。

カルスNC-Rを使つてみて、「生モミガラをすき込んでから時間を置かずに次の定植をしても生育に悪影響が出ないの助かる。カルスNC-Rを使用した大葉は下部の節間が詰まり生育も順調で病気も年々少なくなっています。」と語つてくれました。

大葉は地元の大手スーパーに出荷され薬味やま物としてだけではなく、そのまま食べても大変美味しいと好評を得ています。

なお、資料を「希望の方は、資料請求券をハガキに貼り「住所・氏名・年齢・電話番号・農業形態・規模」を必ず明記のうえ左記までお送りください。

▼リサール酵産株式会社
埼玉県さいたま市北区
富原町2の110の12
電話048(668)3301
FAX048(668)3315

2016年(平成28年)10月25日(火曜日)

トマトの残さをすき込み 微生物で安心の土づくり

土壤改良資材

カルスNC-R

リサール酵産(株)



リサール酵産(株)は、微生物を活用する土壤改良資材「カルスNC-R」を全国に製造販売しています。埼玉県加須市でトマト栽培を営む下山豊さんは、「カルスNC-R」を用いて、堆肥の材料となる生の有機物と一緒に直接圃場を使つた土づくりを4年(ほじょう)に施し、土前から実践しています。中で堆肥化しながら微生

物相を豊かにして、作物の生育に適した土壤環境をつくります。

■ご愛用者の声

埼玉県加須市でトマト栽培を営む下山豊さんは、「カルスNC-R」を用いて、堆肥の材料となる生の有機物と一緒に直接圃場を使つた土づくりを4年(ほじょう)に施し、土前から実践しています。中で堆肥化しながら微生

物相を豊かにして、作物の生育に適した土壤環境をつくります。

「カルスNC-R」と安米ぬかを施用したところ、もみ殻が分解されるのが速く、土が軟らかくなつたのを感じました。本当に半信半疑でしたが、トマトの生育は徐々に回復して、今では芯の太いガッ

チリとした樹になつています。

現在は30ヶのハウスで、収穫後にトマトの残葉づくの上手な親戚から「カルスNC-R」を紹介され使い始めました。

もみ殻の入った圃場に「カルスNC-R」を使えば、土づくりは微生物に任せられる。自分は肥料管理に集中することができます。とでも助かる。安心して栽培しています」と、効果を強調してくれました。

詳しいお問い合わせ、資料請求は左記まで。

リサール酵産(株)

〒331-0812
埼玉県さいたま市北区
宮原町2-110-12
☎ 048(668)3301
FAX 048(668)3315

トマトの残渣は手間をかけずに土づくりに活用

**土壤改良資材
カルスNC-R**

リサール酵産(株)

リサール酵産(株)は、微生物を活用する土壤改良物相を豊かにして作物

資材「カルスNC-R」の生育に適した土壤環境を全国に製造販売し、今をつくっています。年は創業40年目です。

「カルスNC-R」は、茨城県筑西市でトマトの栽培を営む水柿さんは、堆肥の材料となる生の有機物と一緒に直接圃場(ほじょう)に施し、土ついた土づくりで、手間をスに生の鶏ふん・牛ふ



水柿さん

トマトを栽培しています。地元の柳田肥料店から「カルスNC-R」を使い始めて7年が経過、現在は80㌃のハウ

良好で、葉も大きく葉数も増え樹勢がとても良くなっただ」と話しています。

水柿さんのトマトは、酸味と甘みのバランスがちょうどよく、とてもおいしいと市場でも評判です。

なお、詳しいお問い合わせ、資料請求は左記まで



カルスNC-R

リサール酵産(株)

〒331-0812

埼玉県さいたま市北区

宮原町2-110-12

☎ 048(668)3301

FAX 048(668)3315

ん・もみ殻・米ぬかと一緒に「カルスNC-R」を散布し、トマトの残渣(さんさ)も持ち出さず、生のままさき込んでいます。

微生物活用の 土壤改良資材 「カルスNC-R」

リサール酵産

リサール酵産株式会社 つくる。

社は微生物を活用する

土壤改良資材「カルス
NC-R」を製造し全

国に販売している。

カルスNC-Rは、
堆肥の材料となる生の
有機物と一緒に直接ほ
場に施し、土中で堆肥
化しながら微生物相を
豊かにして、作物の生

育に適した土壤環境を
形成する。また、高糖度トマトを生産して
いる。

7年前から、カルス
NC-Rを使い始め1



カルスNC-R

糖度なトマトを作ることに力を入れている。
収量は取れなくても高

8) 33315。
FAX 048-(66

生モミガラを利用し高糖度トマトを生産

400平方㍍のハウス
に生モミガラ、稻ワラ、
硫安、米ヌカと一緒に
カルスNC-Rを散布
し、ロータリーですべ
てをすき込みおよそ1
ヶ月後に定植を行う。

佐藤さんのトマトは
糖度が10度近くまで上
がることもあり、美味
しく甘いトマトとして
市場でも指名で取引き
され、オリジナルプラン
ドで都内に出荷できま
す。

トマトの味には特に
こだわっており、基肥にはボ
カシ肥料を使用し、で
きるだけ水を抑えた栽
培方法で、なるべく水
を取れています。会社
は12月埼玉県さいたま
市北区宮原町2の11
0の12。

▼リサール酵産株式
会社 〒331-08
12月埼玉県さいたま
市北区宮原町2の11
0の12。

カルスNC-Rを使
い始めてからは、土づ
くりの効果で、「運作
障害もなくセンチュウ
の生育も順調で糖度
も上がってきている」
と話す。

カルスNC-Rを使
い始めてからは、土づ
くりの効果で、「運作
障害もなくセンチュウ
の生育も順調で糖度
も見られない。トマ
トの生育も順調で糖度
も上がってきている」
と話す。

簡単土づくりで 高品質キュウリを生産

土壤改良資材 カルスNC-R

リサール酵産(株)

これまでキュウリの土
を生産しています。

早速使ってみることにし
ました。

で、堆肥づくりの手間が
なくなります」と語ってくれ
ました。

ついには、6・5haの
水田から出る大量のもみ
殻を堆肥場で何度も切り
返しを行って堆肥を作り
返してきました。ある時、「カル
スNC-R」を使い始めて
「カルスNC-R」を撒布。ロータリー
で全てをすき込み、1週間
後に定植しました。使用後の感想は「もみ
殻を生のまま使えるの
で、堆肥づくりの手間が
なくなります」と語ってくれ
ました。

詳しいお問い合わせ、
資料請求は左記まで。

リサール酵産(株)は、微生物を活用する土壤改良資材「カルスNC-R」を製造し、全国に販売しています。「カルスNC-R」は、堆肥の材料となる生の有機物と一緒に、直接圃場(ほじょう)に施し、土中で堆肥化しながら微生物相を豊かにして、作物の生育に適した栽培環境をつくります。



〈ご愛用者の声〉
埼玉県羽生市でキュウリ栽培を営む農事組合法人羽生市野菜組合の荒井守さん(写真)は、「カルスNC-R」と生もみ殻を組み合わせた土づくりで、高品質のキュウリ



カルスNC-R

リサール酵産(株)

〒331-0812

埼玉県さいたま市北区宮原町

2-110-12

☎ 048(668)3301

FAX 048(668)3315

冬・春場のキユウリ栽培、その後の夏秋トマト栽培を周年作物体系として、30年余りハウス栽培を継続している飯嶋伊千良(いいじま・いちろう)さん。JAあらばみどりの旭胡瓜部会(部会員約200軒)の副部会長であり、地元・豊島(おうまい)胡瓜組合(組合員24軒)の委員長として、地場産キユウリの普及拡大に取り組み、栽培技術向上に日々努力している。

栽培をしていた父親から、いまの周年作物体系に切り替えて、ハウス農家の栽培として基本に置いたのが「より安全で、より美味しい野菜を消費者に供給する」ことだった。このために、これまで多くの栽培方法を試み、減農薬・減化学肥料を追求している。その一つ、リサール酵産(埼玉県千葉県旭市)は大消費地

さいたま市北区原町1の505の1)が提唱した。

千葉県旭市は大消費地

・首都圏の近郊という立

地条件を活かし、かねて

より、キユウリ・トマト

など人が主力となり、

これら作物を栽培管理し

ている。ちなみに、今年

の夏の猛暑にもかかわら

ず、「米は例年と変わら

ず反当たり10倍程を収穫

した」(飯嶋さん)とい

う。また、水稻は旱稻品種

・(サコガネを1町1反戻

培後継者となる息子さ

い。

飯嶋さんも、当初、キ

ウリには、作物の根に作

るためには、連作障害を

克服しなければならな

い。

また、ネコブセンチュ

ー当初はカルスに対し

カルスと未熟有機物の

生物資材。

障害に関わる農薬は全く

使用していない。

「当初はカルスに対し

カルスと未熟有機物の

生物資材。

障害に関わる農薬は全く

使用していない。

「当初はカルスに対し</p

